MRテキスト2018
疾病と治療
基　礎

正誤表 統合版
（2022年６月）

頁	該当箇所	誤	正
4	左の上から10行目	栄養表示基準では，糖質は「炭水化物から食物繊維を除いたもの」であり，「単糖類と二糖類」を指す．	削除
21	図2-1	（シナプスを指す位置）	訂正図表一覧参照
		（神経細胞を指す位置）	
23	左の上から1行目	広表面積	表面積
26	右の上から9行目	唾液腺や涙腺の分泌などを支配する	唾液や涙液の分泌，発声などを支配する．
32	左の下から10行目	心臓は拍出機能を持つ大血管で，表面を走る血管によって栄養供給される．	心臓は拍出機能を持つ大きな血管ともいえるが，栄養はその表面を走行する別の血管（冠動脈）によって供給される．
34	右の下から5行目	その後T波となり心室の興奮が収まる．	その後に出現する波をT波といい，これは心室の興奮消退を示している．なお，U波は成因不詳である．
40	右の上から7行目	一方，副交感神経は心収縮抑制により血圧低下をもたらす．	削除
	右の下から1行目	α_1受容体をもつため	α_1受容体が優位であるため
41	左の上から2行目	β_2受容体をもつため	β_2受容体が優位であるため
		骨格筋・脳・心臓の血管は	骨格筋・心臓の血管は
42	左の下から1行目	腎臓の集合管における	腎臓の遠位尿細管～集合管における
47	左の上から11行目	**②下気道の組織**　気管～気管支内面の粘膜も上気道と同様の多列線毛上皮である．肺内に入った気管支は，数回分岐した後に細気管支となり，	**②下気道の組織**　肺内に入った気管支は，数回分岐した後に細気管支となり，
	左の下から11行目	下気道は軟骨を含まず	下気道の末端部をなす細気管支は軟骨を含まず
49	左の下から8行目	④1秒量（FEV_1%）	④1秒量（FEV_1）
	右の下から8行目	慢性閉塞性肺疾患（COPD*2，気管支喘息など）では	慢性閉塞性肺疾患（COPD*2），気管支喘息などでは
52	左の上から5行目	マクロファージによって	マクロファージや好中球によって
	右の上から5～10行目	異物の処理にはマクロファージや肺サーファクタント（表面活性物質）が，感染に対してはIgGを主体とする免疫機構が働く．マクロファージは好中球とともに異物を貪食する．肺サーファクタントは，肺胞の表面張力を弱める物質で，肺胞の表面全体をおおうことで肺胞の伸展を補助する．	肺胞における異物処理には食細胞であるマクロファージや好中球が働く．その貪食は肺サーファクタントによって促進される．肺サーファクタントは，肺胞の全表面に拡がって肺胞の虚脱を防ぐ表面活性物質として働き，Ⅱ型肺胞上皮細胞で産生される生理活性物質で，そのタンパク質成分（SP-AやSP-D）が侵入細菌やウィルスなどに結合し，補体活性化を惹起することでマクロファージや好中球の貪食を亢進させる．また，マクロファージに対する高い親和性により，マクロファージの遊走やフリーラジカル産生を促す．このように，肺サーファクタントは肺胞の自然免疫において大きな役割を担っている．
55	右の上から14行目	X線区分	X線学的区分
56	右の下から3行目	上直腸動脈	上直腸静脈
	右の下から2行目	中直腸動脈，下直腸動脈	中直腸静脈，下直腸静脈
57	右の下から4行目	腸の上皮細胞	小腸の上皮細胞
64	右の下1行目	エストロゲンがある	エストロゲンなどがある

71	図6-6	（胸鎖関節の示す位置）	訂正図一覧参照
	右の上から3行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	右の上から7行目	1．活性型ビタミンD3	1．活性型ビタミンD
	右の上から10行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	右の上から12行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
72	図6-7	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	右の上から5行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	右の下から7行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	右の下から2行目	活性型ビタミンD3を生成することで	腎臓における活性型ビタミンDの生成促進により
85	右の上から4行目	血圧上昇に働く．	血圧上昇に働く（図7-10）．
89	左の上から6～7行目	膨大部の内側部は峡部と呼ばれ，内腔が狭いことから異所性妊娠の好発部位とされる．	内腔が狭いことから，膨大部の内側部は峡部と呼ばれている．
96	左の下から7行目	グルコースやグリコーゲンは	グルコースは
102	右の上から11行目	6種類が知られており，いずれも末梢の内分泌腺のホルモン分泌を促進する	6種類が知られている．
104	左の下から6行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	右の下から4行目	腎臓の集合管に働き	腎臓の遠位尿細管～集合管に働き
106	左の上から5行目	これらは交感神経刺激と同様の作用を示すが，アドレナリンは強心作用や血糖上昇作用が強いのに対し，ノルアドレナリンは末梢血管収縮による血圧上昇作用を強く示す．	これらは基本的には交感神経刺激と同様の作用を示すが，それぞれ結合しやすい受容体が異なるため，受容体の存在部位により異なる働きを示すこともある．特に血液循環系において，アドレナリンとノルアドレナリンの作用に違いがみられる．
	表8-1		削除
107	右の上から1～4行目	特に，エストロゲンは生成途中でテストステロンとなるが，卵巣など女性生殖器を中心に存在するアロマターゼという酵素により変換される．	特に，エストロゲンは卵巣など女性生殖器を中心に存在するアロマターゼという酵素によりテストステロンから変換されて生成する．
108	右の下から4行目	3．活性型ビタミンD3	3．活性型ビタミンD
	右の下から1行目	ビタミンDは，腎臓でビタミンD3に変換される	ビタミンDは，肝臓と腎臓で二重の水酸化を受けて活性型ビタミンDに変換される．
109	表8-3 副腎皮質の標的器官 （上段）	腎の集合管	腎臓の遠位尿細管～集合管
	表8-3 腎臓のホルモン （下段）	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD
	左の上から1行目	活性型ビタミンD3は血液で運ばれ	活性型ビタミンDは血液で運ばれ
116	右の下から4行目	2回目以降の抗原侵入で起こる免疫反応にかかわる細胞であり，	削除
129	図9-19 b.Ⅱ型アレルギーのメカニズム	（オプソニン作用を示す矢印）	訂正図一覧参照
134	右の下から4行目	活性型ビタミンD3	活性型ビタミンD

135	左の上から3～4行目	ブドウ膜	ぶどう膜
	左の上から9行目		
	左の上から15～16行目		
	右の上から1行目（見出し）		
	右の上から2行目		
	右の上から4行目		
	図10-2（図中文字）		
144	右の上から6行目	このように，臨界期の状態により回復不能の障害を残すことがある．	削除
157	左の下から18行目	エストロゲンとプロゲステロンの低下により，	エストロゲンの低下により，
160	冒頭の上から1行目	日本人の死因の第2位と第3位は心臓病と脳卒中であり，これらはすべて動脈硬化と深く関係する	日本人の死因の上位を占める心臓病と脳卒中は動脈硬化と深く関係する
	左の4行目	じゃくじょう（ルビ）	じゅくじょう（ルビ）
	図11-17	b．メンケベルク型動脈硬化	b．メンケベルグ型動脈硬化
161	右の下から10行目	冠動脈のアテローム硬化により，部分閉塞では狭心症，完全閉塞では心筋梗塞となる	冠動脈のアテローム硬化による閉塞から虚血となる．心筋が壊死に至ったものが心筋梗塞であり，心筋壊死に至らないものが狭心症である．
163	中央の下から8行目	活性型ビタミンD_3	活性型ビタミンD

訂正図表一覧

キリトリ線

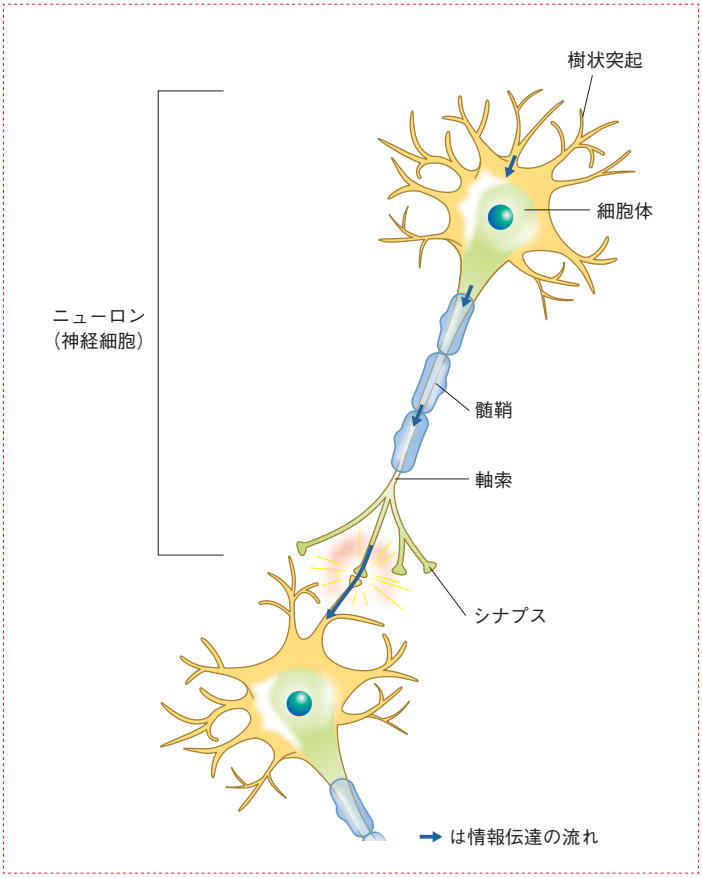

図 2-1 神経組織

キリトリ線

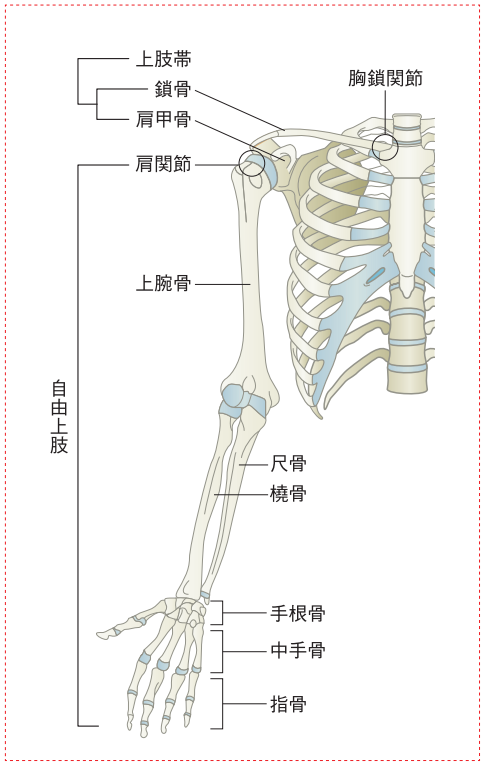

図 6-6 a. 上　肢

キリトリ線

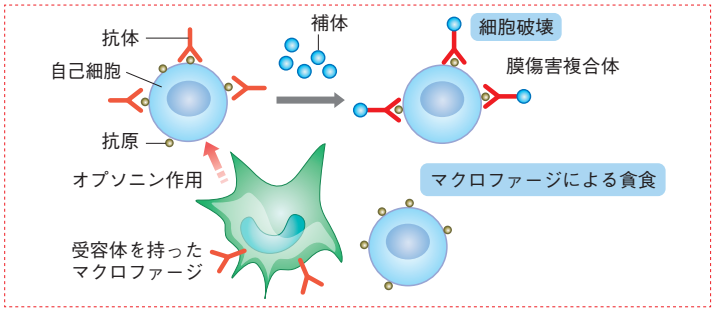

図9-19 b. Ⅱ型アレルギーのメカニズム